

むゆいげ

107号
No.1107

2014(平成26)年
11月1日

うれい
なほだいで
あらわゆるたいげに
またなほこが
ふかるとなほり
うれいが
ふかくたなほり
まつさ

相田みつを美術館
オリジナルカレンダーより頂きました

発行者:高槻市氷室町2-19-30

浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話(072)696-0666

FAX(072)692-0769



某

お笑い芸人と占い師との関係に端を發した騒動が、ワイドショーの話題を独占していた頃がありました。私には、興味も、関心もありませんでしたが、いつも申し上げていることが、人々に理解しやすい実際のケースとして展開しているとは感じていました。

「①信じる対象を誤ると取り返しのつかないことになる」「②藁を掴んだ者は溺れる」

これらが見事に的中している事例です。占いの先には、救いも解決の道もありません。あるのは出口の見えない迷路だけです。

大病をしたり、事故に遭ったり、身内や友人が急に亡くなったり、仕事や家庭が上手くいかなかったり…と、夢ならば覚えてほしく、できれば避けて通

りたいと思うような出来事が、逃れようのない現実となつて、我が身に起こる無常の世に身を置くお互いです。予期せぬ不都合が訪れたならば、「どうして私にこんな不幸が…」と、誰もが感じるはずです。

そこから、原因や理由を考えるのですが、間違つた方向に答えを探し始めると厄介です。ここから、ボタンのかけ違いが生まれるのです。悲痛と不安を抱えたまま、インチキな占い師や霊媒師や祈祷師の元へと相談に赴けば、ネギを背負つたカモと同じです。

「家の向きが悪い」「墓の場所の問題」「先祖が崇つている」「字画(画数)のせい」など…と適当なことを告げられます。不安を煽られながらも、「原因が特定された」と思い込んでの一時的な安堵と、さらなる災難や不幸

順風の中で自身を見失い
逆風の中で自身に出逢う

ほのぼのの
秋季

法話





平成二十六年
萬徳寺報恩講法要のご案内

◎十一月八日(土)

昼席 午後二時(速夜)
夜席 午後七時(初夜)

◎十一月九日(日)

朝席 午前十時三十分(日中)
※朝席は仏教婦人会の御座。
その後総会

昼席 午後二時三十分
(速夜)ご満座

ご講師 芦屋市 西法寺住職
上原大信師

★年行司の方によります、お志の受付
(帳場)は、午後二時二十分よりしてい
ただきます。



さあ!! 報恩講さんです!!

「忙しくて参る暇がない」という人は、
暇があつても参らない。仏法は寿命との
競争ですよ。

◎報恩講は、年に二度の親鸞聖人の法事で
す。そして親鸞さまと(出遇う日)です。

◎報恩講は、私自身の(お葬式)です。古い私
がエゴイズムの塊の(地獄・餓鬼・畜生)を
抱える私が…命終していくからです。

◎報恩講は、私自身の(誕生日)です。生
きとし生けるものすべてに支えられ生
かされていることに気づかされた、新た
な私が生まれるからです。

を逃れたい心情から、勧誘さ
れるままに、高額な壺や印鑑
を買わされてしまうのです。後
になつて、私の元を相談に訪れ
た若い主婦もいました。この女
性は、早い段階で目が覚めたの
で手遅れにならずにすみまし
たが、気づかずに過ごしていた
ならば、ボタンのかけ違いは止
まらず、「なぜ?」「どうし
て?」と、答えの見つからない
苦悩に喘ぎ、深い迷路の闇に
溺れていたに違いありません。
これこそ不幸の極みです。
迷信や習俗(俗信)を気にす
る人は、特に注意が必要です。
こちらからの啓発もあり、最近
では「**四十九が三ヶ月になる**
と縁起が悪い」という類いの台
詞は、死後になりつつありま
す。「**写真に撮られると魂が**
吸われる」と言っているのと同
程度で、道理を外れている幼稚
で恥ずかしい態度という理解

からの当然の結果です。ところ
が、まだまだ世間には、迷信や
習俗(俗信)の雑草を、心に植
えたままの人も多くいます。ワ
イドショーを見ながら、某お笑
い芸人を笑い者に行っている人々
の中にも、同じ穴のムジナが大
勢いるのです。そして、ムジナ
たちは、自分が笑われていると
は露とも思わず、素知らぬ顔
でテレビを見ています。

当寺で毎月発行している
寺報『**お寺だより**』には、「お
寺からの〴〵便り〴〵」の他に、も
う一つ重要な意味が込められ
ています。「**お寺を〴〵頼り〴〵に**
してほしい」というメッセージ
ジーです。これまでの人生
で、かけ違えてきた思考のボ
タンを、最初から全て留め直
せる場所が〴〵お寺〴〵なのです。
ここには、藁を掴んで溺れさ
せない本物の救いと揺るぎ
ない安心があります。

この人生には、都合のよい
歓迎すべきことばかりが起
こってくれる訳ではありません
ん。思い描いた通りの順調で
平坦な道の上では、つい調子
に乗って自分自身を見失って
しまいやすいものです。周囲
のことは注視して鋭く分析で
きても、自己を見つめる視点
が甘くなりがちです。思い通
りにならない行き詰まった困
難な場面に立たされた時にこ
そ、人間は自分を見つめる眼
が開けるチャンスなのです。
そのような状況で開けた
眼は、そう簡単に閉じること
はありません。しかし、頼る
べき相手を間違つて、その大
切なチャンスを失ってしまつ
たのでは、元も子もありません。
「**逆境**」や「**逆風**」のおか
げで、あなたは初めて、自己
に向き合う**尊い機会**を当て
られたのです。

※法話エッセイ「心が晴れる40のコトバ」吉村隆真師からいただきました。

住職の ひとり言



◆ 蒸し蒸しする夏から、秋の兆しが見え始めてと思う間もなく、陽が暮れるのが早くなり、落ち葉の季節になってきました。季節が移ろいゆくのは当たり前前のことです。季節だけでなく全てのものが移ろいゆくことを、仏教では「無常」といいます。秋は樹木が紅葉し、散っていく様に、人生を終える私たちの姿と重なり、より「無常」を感じるのでしょうか。

◆ さあ！十一月は萬徳寺報恩講の季節です。日々の暮らしの中で、日頃の膿がたまっていますか。今、厳しい老の真つただ中で、又家族がありながら無縁家族の真つただ中で、寂しさ、悲しさを味わっておられる方々、どうぞご聴聞で難しい阿弥陀如来さまに遇って下さい。自分を見つめ、人生を見直して下さい。〃限りあるいのち〃をお味わい下さいませ。

個人情報により非表示にさせていただきます。

この娑婆の世界を一生懸命生きて来られました。残

された者にとって、今一番お念仏の心が沁みとおる一時です。お念仏を申すとは、如来さまの喚びかけに応えていくことです。お念仏申させていたたくところに、そのままお浄土へ向いた人生を歩ませていただくのです。お念仏を申す人生・仏となる人生を歩ませていただきたいものです。

◆ あるご門徒の三姉妹の方々が、月に一度の本堂での姉妹会！三姉妹のお母さまは十数年前に往生されたため、ご実家が無くなり、仏さまを預かっています萬徳寺へ、月命日に必ず揃ってお寺にお参りをされます。お浄土に還られ、仏さまになられたお母さまの前でお勤めをされ、嫁がれてそれぞれの人生を力強く歩んでおられる三姉妹が、今楽しくお話しをされているのを拝見しますと、本当にお母さま、お父さまのお念仏の香るお育てを感じられずにはおれませぬ。本当に尊いご縁に遇わせていただいております。

除夜会のご案内

◎十二月三十一日(水)

午後十一時三十分より午前一時過ぎまで

★深い静寂のなかに、ゴーン、御恩と響きわたる鐘の音は、そのまま阿弥陀さまのお念仏せよとお喚び声です。大晦日の夜、除夜の鐘を撞いて阿弥陀さまにお礼を申し上げ、一年の仏事行事の締めくくりとして下さい。お正月はお家族そろってご仏壇に慶びのお参りをいたしましょう。